

【目指す学校像】

1 スクール・ミッション

「克己・友愛・創造の心を培う」を教育目標とし、常に自己実現を目指して、己に厳しく努力し続ける創造性豊かな生徒を育成します。学習指導、教養教育、進学指導及び部活動等への取組と実績に基づき、社会に貢献するとともに、自らの好奇心を満たして豊かな人生を構築できる人材を育成します。

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー	「授業で勝負」を合言葉に、「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を実践して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、人が自分の人生をより良く生きるため」という「学び」本来の意義の浸透を図る。さらに国際理解教育を推進して、言語能力と論理的思考力育成に取り組むとともに、国際交流等とおして日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を育成する。
(2) カリキュラム・ポリシー	教養主義に基づき文理バランスよく学習に取り組ませるとともに日々着実に努力を重ねさせることで自信をもたせ、「第一志望を諦めない」指導に組織的に取り組む。教科を横断的に学習することで自己表現と課題発見・解決力を養成する。また、国公立大学や難関私大に果敢に挑戦し、自らが希望する幅広い進路を切り拓く突破力を生徒に身に付ける。
(3) アドミッション・ポリシー 期待する生徒の姿	① 高校生活を自己発見の場とし、本校での学習と諸活動を積極的、継続的に行い、その経験を将来に生かすことができる人材。 ② 難関大学進学について高い志と目標を掲げ、その実現に向けて日々学習に取り組み、積極的にチャレンジする意思をもち、学校と家庭において自ら学習に取り組むことができる人材。 ③ 中学校での部活動、委員会活動、学校行事又は校外でのボランティアなどに積極的な活動をしてきた人材。 ④ いろいろなことに関心をもち、幅広い教養を身に付けようとする高い意識をもつ人材。

【今年度の取組について】

推進事業等

- 東京都教育委員会指定 進学指導研究校
- 東京都教育委員会指定 海外学校間交流等推進校
- 東京都教育委員会指定 部活動等への外国語講師派遣校
- 東京都教育委員会指定「AIを活用した英語教育の充実事業」実施校
- 東京都人事部勤労課労務担当指定 職員室環境改善実施校

1 学習指導(学びの基盤を固める)

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
全ての教員が学習指導のデジタル化技術を活用した教育の推進に取り組む。一人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びと実践的問題演習等を計画的に取り入れる。	教員の約85%以上がICT機器の活用やグループ学習を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現している。また、Classiの試行により、課題配信・回収・採点までの業務の電子化を実現した。 【評価 B】	一人1台端末の積極的活用及び全学年がClassiを活用することにより、AIによる個別最適な学びを実現させ、効率的な学習の実現を目指す。
計画的かつ継続的家庭学習習慣等、自学自習の習慣化充実を図る。この成果をみるため、小テスト、予習・復習チェック、ノート提出、レポート提出等を行う。	自学自習の習慣化を図るため、Teams等を活用した課題配信、定期的な小テスト、予習・復習チェック、ノート提出、レポート提出等を行った。 【評価 B】	紙で実施していた小テスト、予習・復習チェック、ノート提出、レポート提出等を電子化し、効率化を図る。
全学年定期的に生活実態調査を実施し、その結果を三者面談等で活用することで進学意識を向上させる。	三者面談は全学年で実施。特に三年次は二者面談を充実させ、模試データをもとにきめ細かな指導を行った。また、担任だけでなく、部活動顧問等も進路面談することにより、面接指導の充実を図った。 【評価 B】	担任、副担任、進路指導部、部活動顧問等全教員できめ細かな生徒面談を実施し、進学指導を充実させる。
英語力や国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成など、グローバル人材の育成に向けた英語力を強化する。	外国人を招いた国際交流事業、都立高校生海外派遣事業、総合的な探究の時間における国際社会理解等様々な場面でグローバル人材の育成に向けた英語力強化に取り組んだ。 【評価 A】	国際交流事業、都立高校生海外派遣事業、総合的な探究の時間における国際社会理解のほか、海外修学旅行、学校独自の海外研修旅行を実施する。

2 進路指導（自ら未来を切り拓く力の育成）

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
英語4技能試験対策としてのGTECの実施・TGGの活用を継続して取り組む。実用英語技能検定など全ての英語資格試験受験を推進し可能な支援を行う。	TGG(TOKYO GLOBAL GATEWAY)体験【1年(10月)】実用英語技能検定は全学年全員実施。大学入試に活用する生徒の増加、入試成果の向上、海外修学旅行での交流活動における実践的な英語運用能力の伸長などの成果が見られた。 【評価 A】	全ての英語資格試験受験を推進し、合格数増加を目指す。そのための組織的な支援を計画的に実施する。
進路希望調査を学期に1回程度実施して、進路希望や学習時間等の定点観測を行うとともに、模擬試験を計画的に実施し、結果分析を通して学力の推移を把握し、指導に活かす。	模試分析による教科戦略の構築。定期的な模試分析会、ケース会議の導入。出願検討会の実施等、学力分析方法を見直し、より丁寧な指導を実現できた。【評価 B】	東京都より指定された「進学指導研究校」の取組から次年度は「進学指導等の充実事業推進校」として3か年計画を構築し、進学指導の強化を図る。
第一志望を諦めない進学意識を育成する。1学年は国公私立大学訪問、2学年は大学模擬授業を実施し、3学年は出願対策講座を開催するなど、学習意識向上を図る。	大学訪問(中央大学、東京都立大学)【1年(7月)】 大学模擬授業体験【2年(7月)】 出願対策講座(35大学による入試関係説明)【3年(11月)】 【評価 B】	大学訪問(中央大学、東京都立大学)、大学模擬授業体験、出願対策講座のほか、ケース会議、出願相談会等進学支援の充実を図る。
長期休業日や土曜授業午後等に講習・補習、教養講座を全校体制で実施する。	長期休業中の講習講座数及び参加生徒数も増加し、主体的に学習に取り組む生徒が増加した。夏季休業期間67講座 【評価 B】	部活動や行事の準備と並行して実施するため、参加しやすいように組織的に対応していく必要がある。
三年間を見通した進路指導全体計画に基づき、進路部が主導し、各学年・教科と連携して、組織的・計画的な進路指導を進めるとともに、進学実績の持続的改善が可能な進学指導体制を構築する。	進学指導研究校として、三年間の進路指導計画の抜本的な見直しを図り、組織的・計画的な進路指導計画を策定。データを活かした進路面接を丁寧に行った。 【評価 B】	次年度は「進学指導等の充実事業推進校」として3か年計画を構築し、さらに進学指導の強化を図る。
自習室や自習スペースの確保により、最長で午後7時50分まで生徒に校内で学習できる場を提供する。また、生徒の自主的学習活動支援に努め、自習室に卒業生サポートティーチャーを配置する。	下級生の自習スペースが不足している現状を改善するため、下級生用の自習室を新設。考査前の自習コーナーの増設。サポートティーチャー配置日数増加等により、自学自習環境の整備に取り組んだ。 【評価 B】	進学指導等の充実事業推進校として、自主学習環境整備のための予算を確保し、自習室や自習コーナーの環境整備に努める。
進路部および学年が、掲示板の活用や進路通信を通して生徒・保護者・教員への時機を捉えた進路情報を発信する。	進路通信発行回数増加(15回)、進路講演会、保護者対象合格者体験座談会実施等進路情報の発信に努めた。 【評価 B】	進路通信、進路講演会、保護者対象合格者体験座談会等保護者を対象とした進路行事を積極的に取り組んでいく。

3 生活指導（生徒目線に立った特別な支援の充実）

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
「都立高校生活指導指針」による規律・規範を身に付けさせ、人権に十分配慮して指導・助言を行う。生徒に寄り添い、個性や意見を尊重し、主体性を育む。	生徒に寄り添い、個性や意見を尊重し、主体性を育む指導を徹底した。抜本的な校則見直しを実施し、身だしなみルールの廃止。生徒が作る校則を生徒が守ることで校則に対する不満を解消した。 【評価 B】	今年度の取組を定着させ、生徒が望む高校生活を実現させる生徒ファーストの学校を継続していく。
SCIによる全員面接や生徒支援委員会の活動を通して、生徒が抱える課題について教職員間での共通認識を図るとともに、必要な合理的配慮等の支援内容の検討と対応を行う。	特別支援教育・教育相談に関する委員会の開催回数21回実施。 スクールカウンセラー来校日(年間38回)にカウンセリングを実施し、情報交換(指導・助言等を含む)を行った。□ 【評価 B】	生徒支援体制の確立により、安心して学校生活を送る環境が整えられている。家庭との連携を密にし、生徒支援体制の充実を図る。

命と健康・安全を大切に、自分を活かし他者を尊重して行動できる力を育むために熱中症対策や応急処置等、命の安全と健康に関わる講習を実施する。	熱中症対策費を効果的に活用し、更衣室環境整備、スポットクーラー設置などの環境整備に努めた。養護教諭による保健だより、保健動画配信、健康にかかわる講習の実施のほか、個別相談など取組により、命と健康・安全を図った。 【評価 A】	学校行事の実施時期や内容を見直し、安心・安全な学校生活を送ることができるよう継続して環境整備に努める。
自転車通学については、保険加入とヘルメット着用を徹底する。また、講話や資料配布を通して安全教育の徹底に取り組む。	「自転車通学においてヘルメットの着用が必要なことを理解している」と答えた生徒の割合は1年93%、2年93%、3年92% 保護者 95% と高いが、着用率は高いとは言えない。生活委員会等の呼びかけ運動等の取組を実施した。 【評価 C】	大切な命を守るため、自転車を利用する際は乗車用ヘルメットを着用することが当たり前になるよう、引き続き取り組んでいく。

4 特別活動・部活動(学習意欲・進路目標達成意識をエンカレッジする)

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
国際交流学習・異文化理解学習を推進し、生徒一人一人の英語コミュニケーション能力の向上を図る。海外修学旅行(台湾方面)の充実した実施を図り、次年度以降に的確に継承する。	台湾での海外修学旅行では現地の高校生との交流を通して、学校で学んだ英語などのコミュニケーション力を生かす喜びを経験した。また、異文化理解や自国文化の再発見、グローバル視点の醸成等様々な成長を実感できる機会となった。竹林高級中学校と本校はフレンドシップ提携を締結した。 【評価 A】	竹林高級中学校と本校がフレンドシップ提携を結んだことにより、さらに発展的に交流を重ねていく。
学校行事や部活動を通して、リーダーシップやフォロワーシップを育成し、企画・管理能力を育む。また、仲間との協働で、責任を重んじる態度の育成やコミュニケーション能力の伸長を図る。	各行事の実行委員会、部長会議等において生徒主体の活動となるよう、自主性、創造性、協調性を育む支援を行った。 【評価 B】	学校行事や部活動など生徒主体の活動は、生徒の成長に不可欠であり、教職員間が共通理解を図り、学校全体で支援していく。
「部活で勝負」を合言葉に、部活動の振興を図る。年間目標、指導方針、指導方法等をHPで公表するとともに、スポーツ庁及び都のガイドラインに則って効率的且つ効果的な活動を行う。	生徒たちが自らの特性を生かし、充実した学校生活を送ることができている。その成果の一例として、学校評価アンケート「部活動への満足度」では91%に達した。このような成果によって、メリハリのある教育活動が展開できている。 【評価 A】	部活動への参加意欲は高く、生徒の自己有用感や達成感の向上が見られた。学習との両立を図るための支援の充実が課題である。
文化スポーツ等特別推薦を実施する部活動は、上位大会への進出に努めるとともに、部顧問は所属部員の学力向上に教科担当や学級担任と連携して取り組む。	水泳部関東大会出場。野球部西東京ベスト16、男子バスケット部東京都ベスト16、サッカー部T3リーグ昇格。陸上競技部都大会上位入賞。女子バスケット部都ベスト32。部活動顧問による進路面談を実施し、成果が出ている。 【評価 B】	文化スポーツ等特別推薦を実施する部活動においては一定の成果を出すことができた。引き続き、真の文武両道を実現すべく取り組んでいく。

5 安全保持と環境美化(質の高い教育を実現するための環境改善)

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
関係機関や地域からの協力を得て、防災教育を推進し、自助・共助の精神や危険を予知し回避する能力を育成する。	北多摩西部消防署と連携し、AR消火訓練、VR体験、AED研修、応急救護研修、初期消火訓練、煙体験等を通じて、災害から自らの生命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせた。 【評価 B】	「自助」の能力を身に付けさせるとともに、「共助」の精神を育み、人間としての在り方生き方を考えさせる。
環境美化や緑化を推進し、ゴミ分別や節電・節水励行など、環境問題に配慮した生活習慣を確立することにより、質の高い教育の実現に資する。	1学期美化デー、ごみの分別指導等により、環境美化に関する意識向上を図ることができた。節電、節水等については熱中症対策を考慮して、積極的な取組には至らなかった。 【評価 C】	環境美化や緑化を推進し、ゴミ分別や節電・節水励行などの活動を通じて、環境意識を高め、社会の持続可能性に貢献する心を育てていく。

6 広報活動の充実(発信先=本校保護者と生徒・中学生と中学校・進学塾・卒業生)

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
「ミナミ(HYM)の魅力をどのように見せるのか」を第一に、学習情報、受検情報、部活動実績、学校行事、進路状況等について、ホームページ(週3回以上更新)やスクールガイドで情報を提供する。	ホームページの定期的な更新、学校説明会、学校見学会、外部説明会、塾・中学校訪問等を通して本校の教育活動を積極的に発信した。学校説明会や見学会の参加者数は増加し、本校への関心の高まりが見られた。 【評価 A】	ホームページ更新や広報活動の強化により、本校の教育活動が広く周知されるようになったと考えられる。教育活動の特色や成果をより効果的に発信し、志願者確保に向けた広報活動を強化する。
中学校や学習塾主催学校説明会への参加、塾訪問等について、全教職員による体制で取り組む。このために、総務部の進行管理のもと、学校説明マニュアル更新と内容の見直しを行う。	学習塾主催学校説明会への参加については昨年度の反省を生かし、総務部を中心に積極的に参加した。残念ながら、来場者数の少ない会場もあった。学校説明マニュアルについては、今年度の学校経営方針に対応しながら様々な部分で修正が必要となった。 【評価 B】	学習塾主催学校説明会への参加については、今年度の取組を検証し、参加自体を精査する必要がある。校則の見直し等適宜修正しながら学校説明マニュアルの更新をしていく。
土曜授業を授業公開とし、夏季休業中に、学校見学会を実施する。また学校説明会を年2回以上実施する。また、個別相談会を年3回以上実施する。	授業公開の来校者数は大幅に増加し、学校見学会、学校説明会はすぐに定員に達するなど、注目されていることが実感できた。そのため、学校見学会を急遽設定するなどの対応を行った。 【評価 B】	学校見学会の開催回数を増やすなどの対応により、より多くの見学希望者に来校していただけるよう工夫する。
部の活動状況に応じて中学生の部活動体験を実施する。特に文化スポーツ等特別推薦を実施している部は積極的に取組み、優秀な人材の確保を目指す。	部活動体験を積極的に実施した。特に文化スポーツ等特別推薦を実施している部は出願者数が大幅に増加し、推薦倍率向上に貢献した。その結果、優秀な人材を確保することができた。 【評価 B】	文化スポーツ等特別推薦を実施している部だけでなく、その他の部活動についても積極的に部活動体験の機会を増やしていく。

7 組織的な学校運営と働き方改革

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
教職員のライフ・ワーク・バランスの推進及び働き方改革の実現に向けた環境整備を実施する。学校フォルダ内の掲示板活用、デジタルによる発信、会議のペーパーレス化に取り組む。	時差勤務の推奨、校内掲示板の活用促進等業務の効率化に取り組んだ。また、様々なAI等の活用により、課題配信、提出、採点等の運用を開始した。限られた教員ではあるが、AI等を活用し、課題配信、提出、採点をデジタル化することで業務改善に取り組むことができた。 【評価 B】	今後は、すべての教員がデジタル教材を活用し、業務の効率化に取り組む。また、職員室環境改善に伴い、フリーアドレスとなるため、根本的な業務改善を実施する。
体罰、不適切な指導、暴言等の一掃、その他服務事故の根絶に向け、服務事故防止研修等あらゆる機会を捉えて服務事故防止に努める。	定期的な服務事故防止研修を実施し、体罰、不適切な指導、暴言等の一掃に取り組んだ。それにより、服務事故ゼロを達成した。 【評価 A】	今後も定期的な服務事故防止研修を実施し、服務事故ゼロを継続する。

8 経営企画室

目標	具体的な取組と自己評価	次年度以降の課題
施設・設備の造改修は、真に必要な改修や修繕の優先順位を元にメリハリのある要望を行う。特に老朽化など安全上問題のある不具合は、学校経営支援センター経営支援室と連携して早急に改善を図る。	施設老朽化に伴い、教室扉の修繕、プールサイド修繕、ストープ撤去、門扉塗装、バスケットゴール改修工事、テニスコート不陸修繕、防球ネットワイヤー切断修繕、太陽光発電設備設置工事等様々な修繕に対応した。 【評価 B】	今後も老朽化など安全上問題のある不具合については早急に対応していく。また、職員室環境改善事業による改修について適切に対応していく。
予算執行状況を確認し、契約落差金を有効活用する。物品の有効活用に向けて事務処理を迅速に進める。また、予算の有効活用のため、センター執行率を50%以上とする。	センター契約の活用により、予算の効率的な執行に努めた。自律予算以外の予算活用についても適切に執行するよう努めた。また、昼食環境改善、熱中症対策、感染症対策費用等を有効に活用できた。 【評価 B】	予算の有効活用に向け、校務の効率化、職場環境の整備などを考慮しながら、適切に執行していく。職員室環境改善、自習スペースの環境改善に積極的に取り組む。

【重点目標と数値】（ ）内は前年度の達成値

目標	具体的な取組と数値
授業改善と生徒の授業満足度増加 90% (80.8%)	授業評価アンケート あなた<生徒>は全体として授業内容・授業方法等に満足していますか？ 88%
家庭学習時間増加 1年生<平日>70分(71分) <休日> 90分(86分) 2年生<平日>90分(84分) <休日>120分(107分)	家庭学習時間増加 1年生<平日>62分(71分) <休日> 79分(86分) 2年生<平日>100分(84分) <休日>155分(107分)
長期休業中の講習充実 講習講座数100講座(64講座) 講座参加生徒数・延べ2600名(1795名)	長期休業中の講習充実 講習講座数 68講座 講座参加生徒数・延べ 1995人
資格・検定等合格者数 実用英語検定準1級 10名(7名) 2級 170名(144名) 準2級 170名(136名)	資格・検定等合格者数 実用英語検定準1級 4名 2級 170名 準2級 238名
進学実績向上 国公立大学<四年制>合格者数 現役・浪人合計 15名(14名) 難関私立大学合格者数<早慶上理> 現役・浪人合計 10名(8名) 私立大学合格者数<GMARCH> 現役・浪人合計110名(106名) 私立大学<成成明学獨國武> 現役・浪人合計 85名(82名) 大学入学共通テスト出願者数 220名(220名)	進学実績向上 国公立大学<四年制>合格者数 現役・浪人合計 9名 難関私立大学合格者数<早慶上理> 現役・浪人合計 12名 私立大学合格者数<GMARCH> 現役・浪人合計117名 私立大学<成成明学獨國武> 現役・浪人合計 58名 大学入学共通テスト出願者数 231名
進路指導満足度向上 80%(67.2%)	進路指導(進路面談、ガイダンス、進路行事)に満足していますか。 88%